



次の文章は、江戸時代の随筆『折々草』の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

(50点)

1 若狭の国三方郡早瀬といふ所に、いと貧しくして住む女の、名は糸といふが、舅の翁につかへ侍りし事のまめだちたるぞ、ためしなきみさをに侍るなり。

翁は七十年ばかりにて、世にいふ老病などいふけにや、心も愚かになりて、いはけなき子のごとく\*泣いさち、A朝夕のたうべものなどは時ならぬものを好み出だして、せむすべきなきことあまた度なれど、すこしも其翁の言にたがはずとり作りて参らせける。

冬のほどなるに、風吹きあれ雨うちしぐれて海のうちへもいとあらく、漁夫どもも業をおこたりて、いとかなしくおもひ居りける比、此翁「真魚のいとよきをたうべむ」といひ出だしけるに、七日ばかりも日しけて侍るに、真魚とてはこれらの海辺にはいづべに行きて得むかたもあらず。さはとてなしともあらずともいはむすべなければ、天地の神にこひのみ(1) いかにもして真魚をば得てしがなといのりけるに、しるしもあらず。さまれ海畔を立ちありきて見むに、(2) 波にうちよせられて侍るなどもなからましやおもひつきぬれば、いと寒き朝風にふかれて、か行きかく行き見けれど、さるものも得侍らず。「こは我心のきたなく侍るによりて、神の申すことをきこしめさぬ也。今はせむすべなければ、いかにも翁をいひなくさめて、そののけしき海の心のなほり給はむまでは、ともかうも物つくりて参らせむ」とおもひしかば、泣くく家にかへれば、翁はのりさけびて、「真魚くはむく」とぞ泣き居ける。此をみな、かきさすりて、「唯今漁夫どもが舟どもおほくしたてて釣に出でて侍れば、此夕なぎにのりては、さはに得てかへりなむ。時もうつりぬるに、朝食は心よく参りてまたせ給へ。よき物作りおきてさむらふ」とて、ほし魚などよきさまにつくりてすゝめければ、「さらば夕食にはたがはで真魚たうべさせよ」とて、朝食はくひたり。いとうれしくおもひて、「衣のいたくひりかけなどしてぬれ

ひぢて侍るを、今の間に洗ひてあぶりほしてきせ参らせむ。是めせ」とて、ときほどきて侍るものをきかへさせ、かのくさき衣をもち出でて、\*石井いはみの侍るにいきて、そぎあらはむとおもひて居立ちて侍るに、鳶とびのかけり来て、何にかあらむめのまへにとりおとしたるに、魚のいまだいきてあるがをどりめぐるなり。いとうれしくてとらへてみれば、二尺ふたぢかばかりなる鱒子ぶりことふ魚也ける。唯ゆめのさまにおもひなりて、まづそをもち来て煮もし焼きもして参らせければ、翁はかぎりなくよろこぼひてけり。

そもく此をみな翁につかへて侍りけるまめ心の深きに、(3) 神々のめでさせ給ふとおもふさまの事のくさく奇しき事侍る中にも、此ことをもはらに人いひながしけるほどに、終つひには国の守きこしめして、いとあつくかづけものたまひていたはり給ふ。

注(\*)

泣いさち||泣きわめき。

石井||岩間から湧く水を利用した洗い場。

問一 傍線部(1)～(3)を現代語訳せよ。

(26点)

問二 傍線部Aについて、

(イ)この問題文では、どのような例が挙げられているか、説明せよ。

(12点)

(ロ)そのことはどのような形で解決したのか、説明せよ。

(12点)